

# 高校生へのおすすめ本リスト

## フィクション編



## 難易度について

……………高校生がやさしく読める本

……………高校生に適した本

……………高校生にできればチャレンジしてほしい本

# 桐島、部活やめるってよ

朝井リョウ / 著

集英社 2010年 Fア



バレー部のキャプテン桐島が部活をやめた。

同じ部の風助は、桐島の言うことは何ひとつ間違っていないけど、言い方がきつくて部員との関係がゆがんでいったせいだと考える。桐島のリベロポジションを任せられ、道しるべがいなくなって不安なのか、視界が開けてすがすがしいのか考えると、自分が嫌な奴に思えてくる。

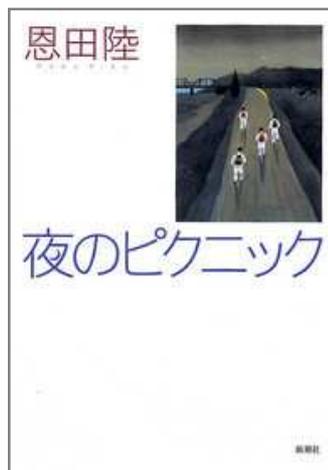
ブラスバンド部の亜矢は、放課後、桐島の部活が終わるのを待ちながらバスケットをする竜汰を見るのが好きだった。それなのに、桐島が部活をやめたせいで竜汰のバスケット姿は見られなくなってしまった。

同級生の気持ちに、少しずつ波紋が広がっていく。

# 夜のピクニック

恩田陸 / 著

新潮社 2004年 Fオ



全校生徒が朝の8時から翌朝の8時まで、80キロを歩き通す「歩行祭」は、北高の伝統行事。

3年間だれにも言えなかった秘密を持つ甲田貴子は、歩行祭で小さな賭けをしようと決意する。

同じクラスの西脇融は、友人の戸田忍から「貴子をよく見ているし、お互いのことが分かっているような独特のムードがある」と言われる。忍の鋭さに驚きながらも、貴子を嫌いなタイプと答える。

貴子と融の間には、恋愛感情ではない何かがある。それぞれの思いを秘めて、長い1日が始まった。

# 自炊男子

佐藤剛史 / 著

現代書林 2011年 Fサ



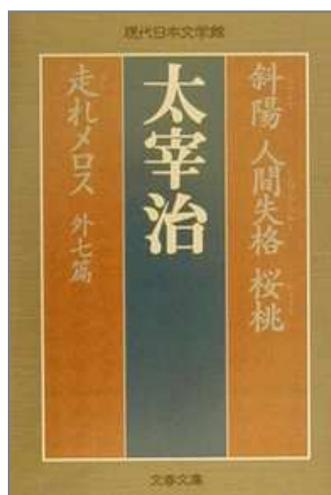
宗像市の九州教育大学の学生イケベは、学食とコンビニに支えられた食生活を送っていた。それなりの学生生活の中で、納得いかないことがいくつかある。それはサークルの先輩が食堂のおばちゃんに調子よく挨拶して、サービスしてもらっていることや、学祭で売り上げのためにがんばったのに、それを注意されたこと。

ある日、学祭で知り合った女の子にいいところを見せようと自炊に挑戦する。その女の子が「お母さん、お父さんは自分の命の時間を使って子どもを食べさせてきた」と話すのを聞いて、食べることに興味を持ち、本格的に自炊を始める。

# 走れメロス 『斜陽』収録

太宰治 / 著

文藝春秋 2000年(初出 1940年)



村の牧人メロスは、近々結婚する妹のために、花嫁衣装や祝宴のごちそうを買いに十里離れたシクラスの市にやってきた。買い物の後、竹馬の友セリヌンティウスに会おうとまちを歩いているうちに、市全体がやけに寂しいことに気づく。まちの人に尋ねても、なかなか答えが返ってこない。重ねて質問していくうちに、人を信じることができない国王が、次々と親族や臣下を殺していることがわかる。それを聞いたメロスは激怒した。

武器を持って城に乗り込んだメロスは処刑されることになるが、妹の結婚式を行うため 3 日間の猶予を願う。そのために親友を人質として残し、メロスは走る。

# 武士道シックステーション

誉田哲也 / 著

文藝春秋 2007年 Fホ



3歳から剣道を始め、宮本武蔵の『五輪書』を愛読している磯山香織。家庭の事情で日本舞踊から剣道に転向した西荻早苗。

中学時代の試合で早苗に負けた香織は、その原因を探ろうと必死になる。剣道に対する姿勢も性格もまったく違う2人が、高校の剣道部で再会する。

両親の離婚のために苗字が変わった早苗を、自分の宿敵と気づかない香織だったが、部活で早苗の独特の動きを目にして、ようやく自分を破った相手だと気づく。

それ以降、香織の猛攻と容赦のない態度に辟易した早苗は、部活をやめることを考える。

# うたうとは小さいのちひろいあげ

村上しいこ / 著

講談社 2015年 Fム



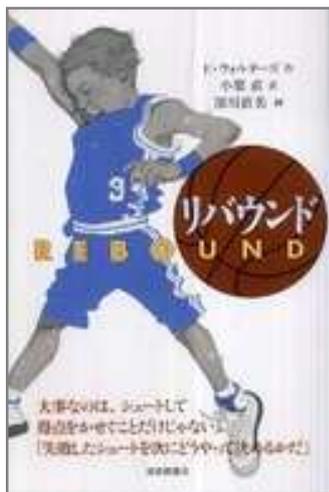
桃子の親友・綾美は中学時代にいじめられて不登校になり、高校にも2日間だけ行ったきり、家に引きこもっている。桃子は綾美の引きこもりに責任を感じ、毎日のように綾美の部屋に行っていた。

入学して10日目の朝、桃子は定期券を拾ってくれた強引な2年生清らに勧誘されて「うた部」を見学する。顧問の先生と部員3人が詠む短歌と、うた部の雰囲気惹かれるが、それを綾美に言い出せない。

自分の教室では、目立たないように、誰とも話さないようにしている桃子に、後ろの席の彩だけがしつこく声をかけてくる。

# リバウンド

エリック・ウォルターズ / 著  
福音館書店 2007年 93ウ

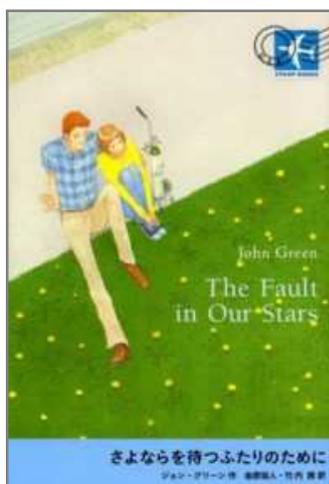


7年生で転校してきたショーンは、悪友スコットの影響で問題児となり、何度も親を呼び出された。でも、8年生になったとき、ショーンはバスケットのチームに入るため、模範的な生徒になるとマカリー教頭に約束した。

始業式の日、車イスに乗った少年デーヴィッドに押されたことから口論になり、殴ろうとしたショーンは逆にさんざん殴られてしまう。マカリー教頭に呼び出されたショーンは、自分は悪くないと主張するが、なかなか信じてもらえない。結局マカリー教頭は、転校早々のデーヴィッドのホスト役をショーンに任せることにする。

# さよならを待つふたりのために

ジョン・グリーン / 著  
岩波書店 2013年 93ク



13歳で甲状腺がんにかかったヘイゼルは、16歳になった時には腫瘍が肺に転移して酸素ボンベが手放せなくなり、家に引きこもっていた。

ある日、母親と医師のすすめで、10代のがん患者が集まって病気や治療について語り合うサポートグループに参加し、片足が義足の少年オーガスタと出会う。

ヘイゼルはオーガスタと仲良くなり、今まで誰にも教えなかった特別な本『至高の痛み』について話す。本を読んだオーガスタも物語に夢中になり、二人はその結末を作者に尋ねようと奔走する。

# 13ヵ月と13週と13日と満月の夜

アレックス・シアラー / 著

求龍堂 2003年 933シ



カーリーは赤毛でそばかすだらけの、ちょっと太めの女の子。2歳半の時に妹が生まれたけれど、すぐに死んでしまったので、もう弟妹ができることはない。だから親友がほしいと願っていた。

そんなとき、背が高く美しいメレディスという女の子が転校してきた。メレディスは両親が亡くなって、80歳を過ぎたおばあちゃんと2人で暮らしている。

カーリーはメレディスに親友になってほしいと声をかけるが、断られてしまう。それでもメレディスが気になっていたカーリーは、メレディスとおばあちゃんのやり取りに不審なものを感じる。

## シフト

ジェニファー・ブラッドベリ / 著

福音館書店 2012年 93フ



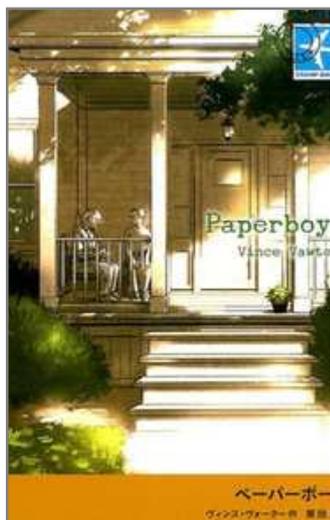
クリスとウィンとは、小学校3年以来の親友で、高校1年の時には二人とも自転車とランニングのバイアスロンにのめりこんでいた。

高校を卒業して、大学が始まるまでの夏休みに、二人で大陸横断自転車旅行に出かける。ところが、ゴールに到着する直前、ウィンは姿を消してしまった。一人で帰ってきたクリスは、両方の親に「ウィンはそのままシアトルのおじさんのところに行ったと思って捜さなかった」と説明する。

新学期が始まったある日、FBIの捜査官ワードから、「ウィンにはシアトルにおじさんなどいない」と告げられる。

# ペーパーボーイ

ヴィンス・ヴォーター / 著  
岩波書店 2013年 93ホ



11歳のぼくは、言葉がつかえて出てこなくなるから、初対面の人と話すのは苦手だ。どもらずにすむ呼び方を考えるから、あだ名をつけるのはとてもうまい。ものを投げるのも得意だ。

6年生最後の日、ぼくの投げた豪速球が友達のラットの口に当たってしまった。罪滅ぼしのために、ぼくはラットの代わりに7月いっぱい新聞配達をすることになった。

毎週金曜日には新聞代を集金しなければならない。ぼくはどもらずには話せないから、たいていの人から頭がおかしいと決めつけられて、追い払われてしまう。それでもぼくは、一人でやりとげようと思う。

# 星の王子さま

サン＝テグジュペリ / 著  
岩波書店 2000年(初出1953年) 95サ



飛行機を操縦していたぼくは、モーターの故障のためにサハラ砂漠で一人ぼっちになった。人の住んでいるところから、千マイルも離れた砂地で眠り、夜が明けると小さな声が聞こえてきた。「ヒツジの絵をかいて」と。

ぼくは驚いてとびあがった。あたりを見回すと、ようすの変わった男の子がいた。あまりにも不思議すぎて、ぼくはポケットから紙と万年筆を取り出した。ぼくがかいたヒツジの絵を見て、男の子は「こんなヨボヨボじゃなくて、長生きするヒツジがほしい」と言う。

そこで、ぼくが箱の絵をかいて「この中にヒツジがいる」と言うと、男の子の顔がぱっと明るくなった。

# 蒼穹の昴 上・下

浅田次郎 / 著

講談社 1996年 Fア



中国の清朝時代、貧しい家庭の四男春児(チュンル)が、占星術師から「将来西太后の財宝をすべて手に入れる」と予言される。春児は、亡くなった長兄の親友で、裕福な家庭の二男文秀にそのことを話す。すると文秀も昔、同じ占星術師から「皇上に仕える側近になる」と予言されたことを打ち明ける。

春児は家族が飢えないよう、予言を信じて家を出る。一方文秀は、予言通りに郷試、殿試に合格し進士となる。

休暇を郷里で過ごした文秀が、都からの公車を待つ間に、占星術師を見かける。そして文秀は、春児への予言が嘘だったことを知らされる。

# 図書館戦争

有川浩 / 著

メディアワークス 2006年 Fア



公序良俗を乱し、人権を侵害する表現を取り締まる法律としてメディア良化法が成立した。検閲対抗権を持つ公共図書館は激化する検閲に対抗するため、武装化した図書隊で軍事訓練にいそしむ。

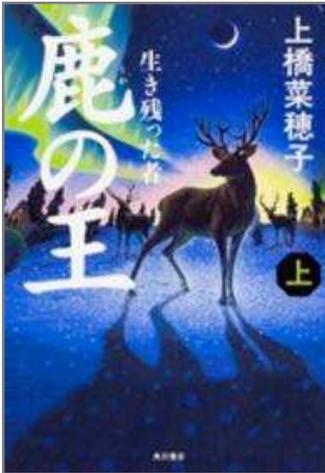
高校生の時に書店で検閲に巻き込まれ、助けてくれた図書隊員にあこがれた笠原郁は、「図書館の自由」に理想を抱いて入隊する。長身でスポーツが得意な郁は、防衛訓練では男子に負けない記録をだすが、指導教官の堂上に認められず反感を持つ。

訓練期間が終わり、希望通り図書隊員となった郁に、異動辞令がでる。

# 鹿の王 上・下

上橋菜穂子 / 著

KADOKAWA 2014年 Fウ



岩塩鉱に囚われていた戦士団の頭ヴァン。ある夜、山犬のような獣たちが岩塩鉱を襲い、謎の病が蔓延する。腕を噛まれて生死の境をさまよったヴァンは、岩塩鉱にいた数十人が息絶えて倒れている中、激しい飢えと怒りに駆られ鎖を引きちぎって外に出る。奴隷監督たちの住居で食べ物を探していると、くぐもった泣き声が聞こえてきた。

医術師ホッサルは天賦の才を持ち、高名な医術師である祖父とともに、皇帝の后を死病から救ったことで広く名を知られる。ホッサルは疫病の原因を調べ、治療効果の高い薬を作るため、岩塩鉱で何があったのかを調べ始める。

# 天盆

王城夕紀 / 著

中央公論新社 2014年 F才



盤戯「天盆」の覇者が政治の中枢を担う小国「蓋」。人々は立身を目指して天盆の研鑽に励むが、もう何十年もの間、平民から征陣者は生まれていない。

蓋で暮らす大工の少勇と妻の静は、河原に捨て置かれた赤子を 13 番目の子どもとして育てることにする。凡天と名付けられた子は、5 人の兄、7 人の姉とともに静が切り盛りする食堂の裏の家で、3 歳から天盆の手ほどきを受ける。初めは兄弟に負けていた凡天だが、徐々に一人ずつ打ち負かしていく。

やがて凡天が 10 歳になった時、借金取りの男との賭けで、天盆大会に出場することになる。

## 舟を編む

三浦しをん / 著

光文社 2011年 Fミ



玄武書房の辞書編集部で働く荒木は定年退職を前に、後継となる社員を探す。スカウトした社員は営業部ではあまり活躍していない馬締。「右」を説明しろと言われると、左利きの人や心臓が右側にある人を考慮して、「体を北に向けたとき、東にあたるほう」と説明するような男。

自分の知識を総動員して回答しようとする律儀さと、言葉に対する鋭い感覚を持つ馬締に、荒木は「言葉の海を渡る舟となる」辞書作りを託す。

一方、学生時代からずっと「変わったやつ」と位置づけられてきた馬締は、辞書編集部で浮いていることを悩む。

## 桜ほうさら

宮部みゆき / 著

PHP 研究所 2013年 Fミ



上総国搗根藩で生まれ育った勝之介は、一本気で負けず嫌いな性格。剣術の腕も師範代を務めるほどの達人だ。母親の期待を一身に受ける兄と違い、次男の笙之介は気が弱く、父親に似て剣術は苦手で学問に秀でていた。

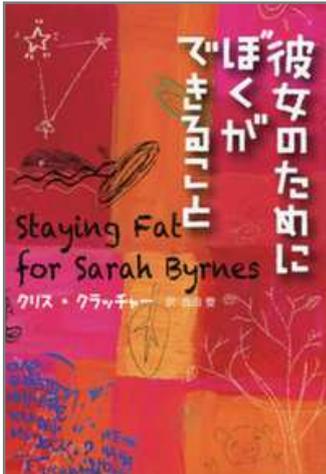
笙之介が20歳のとき、賄賂を受け取った疑いをかけられた父親が、自邸の庭先で腹を切った。古橋家は断絶となり、勝之介と笙之介の出世の道も絶たれた。

数ヶ月後、藩校で働く笙之介を訪ねてきた母親から、古橋家再興のために、江戸に行くように命じられる。笙之介は父親の汚名を晴らすことができるのか。

# 彼女のためにぼくができること

クリス・クラッチャー / 著

あかね書房 2011年 93ク



18歳のエリックは、5キロ分のマッシュドポテトを3キロ用の袋に詰め込んだような体型。生まれる1ヶ月前に父親が家を出て行ったため、母親と二人で暮らしている。

中学時代からの親友サラ・バーンズは、同級生の中でも最高にタフな女の子だ。実はサラは3歳のときに顔と手に大やけどを負ったが、父親の考えで形成外科での治療を受けていない。そんなサラがある日突然、一言も口をきかず机の前から動かなくなって、未成年者専用精神科病棟に入院してしまう。

何度面会に行ってもまったくしゃべらないサラのために、エリックはあることを決意する。

# 夜中に犬に起こった奇妙な事件

マーク・ハットン / 著

早川書房 2003年 933八



高機能自閉症の特性を持つクリストファーには、人間の表情を読む能力がそなわっていない。その反面、数学や物理学には優れた解析力や洞察力を持っている。

ある夜中の12時7分すぎに、クリストファーは近所のミセス・シアーズの家の庭で、犬が死んでいるのを見た。犬の体に刺さっている庭仕事用のフォークを引き抜いて、犬をかかえあげ、しっかりと抱きしめると、ミセス・シアーズの悲鳴が聞こえた。

その後やってきた警察官に腕をつかまれて、クリストファーは彼を殴ってしまう。

# 老人と海

アーネスト・ヘミングウェイ / 著

新潮社 1966年(初出1953年) 933頁



魚がまったくとれない日が続いたあげくに、手伝いの少年に見放され、老漁師サンチャゴはひとりで漁に出た。太陽が真上にきた頃、仕掛けた網に獲物がかかる。その手応えから、かなりの大物であると感じたサンチャゴは、慎重に網を引き、魚の様子をうかがう。

サンチャゴが網をたくり寄せようとする、魚は沖へと舟を引っ張っていく。日が沈み、朝が来ても状況は変わらず、魚はどんどん沖へと進んでいく。

それでも魚をあきらめないサンチャゴが網をつかんで様子を見ていると、ようやく魚が姿をあらわす。それは巨大なマカジキだった。

# 月にハミング

マイケル・モーパーゴ / 著

小学館 2015年 93頁



1915年5月、イギリスのシリー諸島で釣りをしていたアルフィと父親のジムは、無人島セント・ヘレンスで死にかけてた女の子を見つける。父子が急いで家に連れて帰った時に女の子は「ルーシー」と言ったきり気を失ってしまう。母親のメアリーや医師のクロウ先生が看病や治療を続けるうちに、女の子の身体は日に日に元気になっていった。

身体は回復しても一言もしゃべらないその子は、ルーシー・ロスト(迷子のルーシー)と呼ばれることになった。ルーシーがどこから来たのか、なぜしゃべらないのか、町の人々の憶測が広がる中、恐ろしい疑惑が持ち上がる。

# 悲しみよこんにちは

サガン / 著

新潮社 2009年(初出1955年) 953頁



母親を亡くして15年の間に、父親が女たらしで仕事上手で、好奇心が強く、飽きやすいことに、セシルはだんだん慣れていった。

そして17歳の夏、セシルは父親とその情人エルザと一緒に、海辺の別荘で過ごしていた。そこに、亡くなった母親の友人アンヌがやって来る。

セシルは2年前に寄宿舎を出て、アンヌに暮らし方を教わって憧れていたが、気位が高く冷淡でもある彼女を怖れてもいた。別荘でのゆったりとした楽しさが、アンヌによって否定されるのではないかと、セシルは予感する。

# アウシュヴィッツの図書係

アントニオ・G・トゥルベ / 著

集英社 2016年 963頁



アウシュヴィッツ強制収容所の中に秘密の学校を開き、小さな図書館を命がけで運営した人たちがいた。

本を持っているところを見つかっただけでも処刑される収容所で、どの先生にどの本を貸したか覚え、授業が終わったら本を回収し、隠し場所に戻すという図書係の仕事するのは14歳の少女ディタだった。

満足な食事も与えられず、弱った身体で強制労働に従事させられるユダヤ人たちは、次々に力尽きて倒れていく。それでも彼らは、いつか収容所を出て、自由になることをあきらめなかった。ディタにとっても、図書係の仕事が生きがいとなっていく。

# 沈黙

遠藤周作 / 著

新潮社 2003年(初出1966年) Fエ



キリスト教が禁止された江戸初期の日本。高名な神学者であるフェレイラが、日本でキリシタン弾圧に屈して棄教したという報せを受け、弟子であるロドリゴとガルペスが、真相を確かめるため日本に渡ろうと決意する。船旅のなかで、二人はキチジローという弱気な青年に出会う。

海岸に迎えに来たトモギ村の村人たちはキリシタンだった。ロドリゴとガルペスは、彼らの世話になりながら日本での暮らしを手探りで始める。

そんななか、トモギ村の村人だったキチジローが、二人の居場所を役人に知らせてしまう。

# 竜馬がゆく 1～5巻

司馬遼太郎 / 著

文藝春秋 1988年(初出1963年) Fシ



土佐の坂本竜馬は、学塾の師匠に見放されるほど手のかかる子どもだった。14歳で道場に通り始めると顔つきが変わり、19歳になるころには背も伸び、剣の腕も上がった。嘉永6年、剣術修行のために竜馬は江戸へ旅立つ。

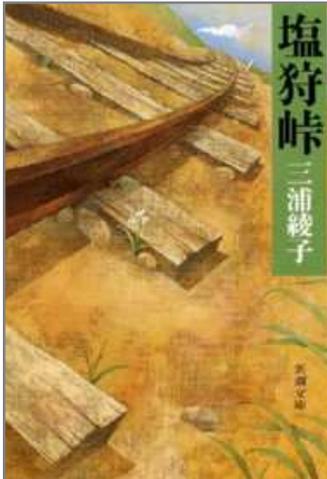
道中、大坂で竜馬はいきなり辻斬りに襲われる。その辻斬りは、土佐の岡田以蔵で、藩主の参勤交代について江戸に出たが、国許で老父が亡くなったために土佐に戻る途中で路銀が尽き、やむなく辻斬りをしたと言う。竜馬は自分の持ち金50両の半分を以蔵に渡す。

そのやりとりを見て、竜馬を気に入った泥棒の藤兵衛から声をかけられる。

# 塩狩峠

三浦綾子 / 著

新潮社 2005年(初出1966年) Fミ



東京生まれの信夫は、武家出身の厳格な祖母に10歳まで育てられる。祖母の死後、キリスト教徒であったため、婚家から追い出されていた母親と暮らすようになるが、キリスト教の考え方を受け入れられない。

学生時代、信夫は吉川と友人になり、その妹のふじ子とも親しくなる。しかし吉川兄妹は、家庭の事情で北海道に引っ越してしまう。

卒業した信夫は、病弱だったふじ子の容態が悪いことを知り、北海道の鉄道会社で働き始める。ある日信夫は、街頭演説で伊木牧師と知り合う。

# シルマリルの物語

トルキン / 著

評論社 2003年(初出1982年) 933ト



『ホビットの冒険』『指輪物語』で語られた出来事より遙か昔の宇宙創成神話から物語は始まり、エルフの歴史へと移りゆく。

エルフの中でも最も才能に恵まれたノルドール族のフェアノールは、国の誇りである二つの木の光を不滅のものとするため、宝玉シルマリルを作り上げる。その後シルマリルは大敵メルコールに奪われてしまい、ノルドール族は楽園の地ヴァリノールを捨てて、メルコールの支配下にある誕生の地「中つ国」に戻って敵と戦う。

著者トルキンが友人に書いた手紙の中で、自身の作品世界について解説した序文あり。

# わたしを離さないで

カズオ・イシグロ / 著

早川書房 2006年 933イ



31歳のキャシーは「提供者」と呼ばれる人たちを11年間介護してきた。「提供者」たちは、ヘールシャムという施設で幼少時代から思春期までを過ごし、10代後半になるとコテージに移り、“その日”を待つ。キャシーの親友のルーースとトミーも「提供者」となった。

ヘールシャムでの毎週の健康診断、保護官と呼ばれる教師たちの奇妙な態度、図工の時間に作った出来のいい作品が持って行かれる謎の展示館、多感な時期を過ごした仲間たちとの別れ。

やがて閉鎖されたヘールシャムの驚くべき実態が明かされていく。

## 罪と罰 1～5巻

ドストエフスキー / 著

光文社 2008年(初出1966年) 983ト



サンクトペテルブルグの町で、大学を除籍になった貧乏なラスコーリニコフは、「あること」を決行するために近所の金貸しの老女の家を下見する。翌日、離れて暮らす母親から手紙が届き、妹ドゥーニャが結婚することになり、母と妹が近いうちに会いに来ることがわかる。

しかしラスコーリニコフは、その結婚が家計のためで、相手の男が悪人だと考え、断固反対する決意を固める。

その後、居酒屋でウォッカを飲んだラスコーリニコフは、酔いがまわって草むらで眠り悪夢をみる。そのせいで「あること」を実行するのはやめようとするが、千載一遇のチャンスが訪れる。



平成29年3月 発行  
高校生へのおすすめ本リスト  
フィクション編

宗像市教育委員会図書課

〒811-3437 福岡県宗像市久原400番地

TEL : 0940-37-1321 FAX : 0940-37-2956

Eメール : [tosyo@city.munakata.fukuoka.jp](mailto:tosyo@city.munakata.fukuoka.jp)